

露地ネギの平床栽培法

福島県試験場 野菜部・経営部
平成15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 03-37-18070000

部門名 野菜－ネギ－作型・栽培型、移植
担当者 岡崎徹哉・岡本和夫

I 新技術の解説

1 要旨

本県においては、ネギは土地利用型野菜として重要な品目の一つであり、今後生産振興を図るには、水田転作畑等の有効活用が不可欠である。しかし、ネギは湿害に弱く、排水不良地にあつては、欠株や初期生育の不良等があり栽培適地は限られている。

このため、ネギの栽培適応地域を拡大するために、転作水田等でも栽培が容易な平床栽培法を確立した。

- (1) 平床栽培では、慣行に比べ軟白長はやや短い、培土回数を増やすことにより目標の軟白長を確保することが可能であり、調製重も慣行並みの重量を確保できる(表2)。
- (2) 規格別収量は、L階級以上が慣行と同等以上確保でき、品質も良好である(図4)。
- (3) 平床栽培法における労働時間や収益性は、慣行栽培と変わらない(表3)。

2 期待される効果

平床栽培法は、普通畑の褐色森林土や水田転作畑の灰色低地土でも栽培可能であり、栽培地の拡大ができる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) ネギ栽培に広く利用されている、ペーパーポット育苗＋歩行型簡易移植機がそのまま利用できる。
- (2) 定植直後の乾燥に注意する。

II 具体的データ等

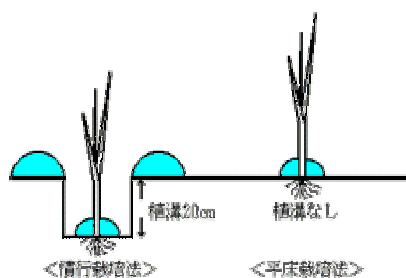


図1 栽培様式



図2 定植直後の状況(慣行)

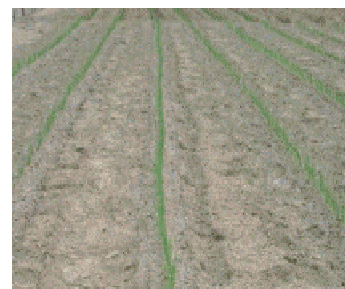


図3 定植直後の状況(平床)

表1 露地ネギ各栽培法の作型(現地ほ場)

(単位: hr/10a)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	労働時間
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
(ア)平床栽培	●		▲	●	●	●	●		■	298.6
(イ)慣行栽培	●		▲	●	●	●	●		■	301.1

注1: 実証試験担当農家の作業日誌より作成した。

表2 収穫時の生育状況

圃場NO	区	培土回数	全長 (cm)	葉鞘長 (cm)	1本重 (g)	茎径 (mm)	重/茎比	緑葉 (枚)	軟白長 (cm)	調製重 (g)
1.普通畑	平床Ⅰ	3	91.2	26.0	201.1	19.8	10.2	5.8	25.8	120.1
	平床Ⅱ	4	87.1	25.8	170.8	18.8	9.1	5.8	28.8	104.5
	平床Ⅲ	5	88.0	24.5	175.7	18.9	9.3	5.8	27.0	107.8
	慣行	3注1)	89.9	26.9	180.4	18.9	9.3	6.1	28.8	102.4
2.転作田	平床	7	98.6	36.5	260.8	22.4	11.6	6.4	28.8	146.4
	慣行	5注1)	97.6	36.5	249.3	21.3	11.7	7.7	30.6	132.9

※普通畑: 褐色森林土, 供試品種: 長宝(加ね種苗), 播種日8/26, 定植日5/22, 収穫11/8

※転作田: 灰色低地土, 供試品種: 雄山(トネ種苗), 播種日9/15, 定植日5/11, 収穫10/30

※注1): 慣行区は植溝20cmの埋め戻しのため管理欄による土入れ2回行った。

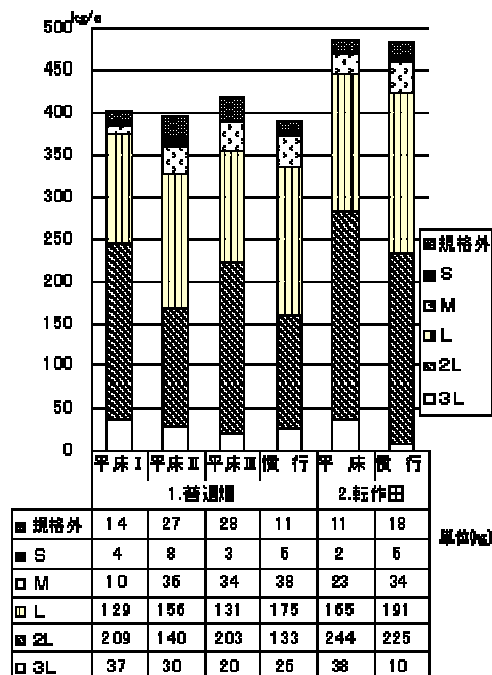


図4 規格別収量(kg/a)

表3 各栽培法の収支試算(単位: 円/kg, 円/10a, %)

	(ア)平床栽培	(イ)慣行栽培
労働時間・収量	表1及び図4(転作田)による	
規格別単価 ^{※1}	2L:100, 2L:140, L:160, M:100, S:60	
粗収益	667,654	666,774
費用(経営費)	348,829	348,075
種苗費	23,748	23,748
肥料費	34,433	34,433
農薬費	17,133	17,133
燃料費	53,930	53,930
光熱費	11,536	11,837
農機具費	79,855	79,855
農用建物費	16,000	16,000
公費	1,424	1,424
流通経費	140	140
流通経費	117,430	116,575
農業所得 ^{※2}	318,826	318,700
農業所得/1時間	1,068	1,059
農業所得率	47.8	47.8
家族労働費 ^{※3}	261,275	263,463
生産原価 ^{※4}	610,104	611,537
純利益 ^{※5}	57,551	55,237

注※1: 実証試験担当農家の聴取調査結果による。

※2: 流通経費は反法市場に出荷すると仮定し、出荷運賃(100円/10kg)、出荷販売手数料(10%)、コンテナ使用料(5円/7kg)を計上した。

※3: 労働単価は、実証試験担当農家を長とする機便利用組合の出役賃金から機会費用として算出し、875円/hrとした。

※4: 生産原価=経営費+家族労働費

※5: 純利益=粗収益-生産原価

Ⅲ その他

1 執筆者

岡崎徹哉、高橋 徹

2 主な参考文献・資料

なし